

# けんぽく

第32号[平成28年7月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成28年7月29日発行  
「食」と「ふるさと」  
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

## ◆献上桃の選果式が執り行われました！

もも「あかつき」の出荷最盛期を迎えた平成 28年7月27日（水）、伊達郡桑折町のふくしま未来農業協同組合桑折総合支店会議室において、福島県が皇室及び各宮家に献上するももの選果式が執り行われました。



献上桃選果式の様子

選果式には桑折町の高橋宣博町長を始め、ふくしま未来農業協同組合の菅野孝志代表理事組合長及び生産者、関係機関の担当者など約 50 人が出席しました。

県産ももの献上は昭和 54 年から行われており、桑折町産のももは平成 6 年から 23 年連続で選ばれています。

献上されるももは、選果式当日の朝に収穫し共選場に搬入された 21 万果中から、光センサー選果機を用いて糖度、大きさ、着色により 1 次選果され、さらに目視により厳選された今年最高の 180 果が選ばれました。

この日に選果されたももは、翌 28 日に県の職員により皇室及び各宮家に献上されました。



皇室に献上されるもも「あかつき」

(伊達農業普及所)

## ◆『第1回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン』を開催！

平成28年7月16日（土）、伊達市のふくしま未来農業協同組合ファーマーズマーケットみらい百彩館「んめ〜べ」において、『第1回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン』を開催しました。

このキャンペーンは県北地方の特性を生かし、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様に再認識していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るため、管内の直売所等で開催しているものです。

当日は、みらい百彩館「んめ〜べ」で開催された「みらいフェスタ」の1つとして、伊達地方の青果物をPRしました。

試食コーナーでは、ミスピーチキャンペーンクルーが多くのお客様に旬のみずみずしいももと新鮮な夏野菜のおいしさをPRし、来場者に大変好評でした。



ミスピーチによるもの試食提供の様子

また、消費拡大を図るためのPRグッズの配布や風評払拭に向けたパネル展示、アンケート調査を行いました。アンケート集計結果については、今後のPR活動に役立てる予定です。

次回は、平成28年10月23日（日）、福島市公設地方卸売市場において開催する予定です。詳細は決まり次第、当農林事務所ホームページ等でお知らせいたします。

皆様のお越しを心よりお待ちしております！



アンケート調査の様子

(企画部)

◆福島市農業後継者連絡協議会がおいしい農産物をPR！

平成28年7月18日（月）、いわき市小名浜のいわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」において、福島市農業後継者連絡協議会が福島市産農産物の対面試食販売によるPR活動を実施しました。この活動は、同協議会が福島市産農産物のお

いしさを多くの方に知ってもらうことを目的として、毎年実施しているものです。



当日は、ももの「あかつき」を中心に自分たちのつくった農産物の対面試食販売を行いました。ミスピーチキャンペーンクルーによる試食提供や会員の元気なかけ声で客足は途絶えることがなく、お客様から、「毎年買いに来ている」、「甘くて美味しい」等のうれしい声を直接聴くことができました。昨年の1.5倍の農産物を用意しましたが、お陰さまで今年もお昼過ぎには完売となり大盛況で終わることができました。

会員の方々は、お客様から直接声を聞くことで生産者として自信を深めるとともに、自分たちがつくった農産物のおいしさに手応えを感じていました。



福島市産もののPRをする加藤会員

(農業振興普及部)



## ◆「第 21 回ふくしまサクランボまつり」が開催されました！

平成 28 年 6 月 12 日（日）、福島市荒井の四季の里木もれび広場において、「第 21 回ふくしまサクランボまつり」が開催されました。



ミスピーチキャンペーンクルーによるサクランボ配布

このイベントは、福島市オウトウ生産研究会が同市のサクランボの良さを広く知ってもらうことを目的として、毎年開催しているものです。震災の影響により中断することもなく、今年で 21 回目を迎えました。

当日は例年に比べてサクランボの収穫量が少ないなかで、同会会員の生産したきとうにしき佐藤錦、まさみつにしき正光錦等の旬のサクランボが並びました。即売会では、県外発送の注文もあり、昼過ぎには完売となりました。また、ミスピーチキャンペーンクルーによるサクランボの配布、種飛ばし大会やゲームなども開催され、子どもから大人まで楽しめる 1 日となりました。



種飛ばし大会の様子

福島市オウトウ生産研究会では、当イベントのよ

うな消費者との交流活動のほか、細霧冷房など最先端技術の導入による高品質のサクランボ生産にも積極的に取り組んでおり、今後の一層の活躍が期待されます。

（農業振興普及部）

## ◆「伊達な畑カフェ～イチゴ狩り～」が開催されました！

平成 28 年 6 月 25 日（土）、伊達市霊山町において、同地方の青年農業者クラブ「DATEC」（ダテック）主催による消費者交流イベント「伊達な畑カフェ～イチゴ狩り～」が開催されました。

DATECは伊達地方の 20～40 代の若い農業者を中心に構成され、次世代を担う農業者としての資質向上及び消費者等との交流を目的に、平成 8 年から活動している組織です。

「伊達な畑カフェ」は、消費者に「農業体験」や「農家の一服」を通して農家生活を身近に感じてもらう、農業者と消費者との交流を深めることを目的に、昨年度から会員のほ場持ち回りで開催しており、今回が 3 回目となります。



イチゴ狩りの説明を行うDATECの斎藤副会長

当日は、DATEC副会長の斎藤寛泰氏のイチゴハウスを会場として、親子連れなど約 20 名が「イチゴ狩り」と「農家の一服」を体験しました。

「イチゴ狩り」では、会員が参加者にイチゴの採り方やおいしいイチゴの見分け方、品種の違い等を説明しました。参加者は採れたてのイチゴに「市販のイチゴよりも甘くておいしい」と感動した様子でした。また、「農家の一服」では、特製果物シロップのかき氷や飲み物を振る舞い、参加者との交流を

図りました。会員からは「消費者の生の声を聴くことができた」との声が聞かれ、有意義なイベントとなりました。



今後も消費者との交流や学生の就農意欲を喚起する活動等を行うと伺っておりますので、DATECの活動に興味のある方は伊達農業普及所（電話：024-575-3181）にお問合せください。

（伊達農業普及所）

#### ◆川俣町山木屋地区で営農再開に向けた飼料用とうもろこしの栽培実証を実施中！

川俣町山木屋地区では、営農再開に向けて、これまでに水稻、飼料用稲WCS、野菜、花き（コギク、リンドウ）の栽培実証を行ってきました。今年度は、新たに震災前まで盛んに栽培されていた飼料用とうもろこしの栽培実証を実施しています。



不耕起播種専用機による播種作業(5月10日)

実証試験では、作業を山木屋再生受託組合に委託して、除染後の畑地における不耕起栽培の実証と、

適正な堆肥施用量の比較試験を行っています。併せて、福島県農業総合センター畜産研究所の協力により生育調査等も実施しています。



また、鳥獣被害防止のため、同センター浜地域農業再生研究センターの指導の下、イノシシよけのワイヤーメッシュ柵とネットの設置を行い、現在設置の効果について調査しています。



とうもろこしの生育状況と鳥獣被害防止柵(7月5日)

当農林事務所では、今後も山木屋地区の営農再開に向けた支援に積極的に取り組んでまいります。

（農業振興普及部）



## ◆あんぽ柿加工選別包装施設「あんぽ工房みらい」完成披露式が開催されました！

平成 28 年 6 月 23 日（木）、伊達市梁川町において、ふくしま未来農業協同組合主催のあんぽ柿加工選別包装施設「あんぽ工房みらい」完成披露式が開催されました。



「あんぽ工房みらい」施設外観

同施設は、柿栽培農家からの原料柿の購入及びあんぽ柿の加工、さらには各生産農家から出荷されたあんぽ柿の選別・包装を行うことで農家の作業負担の軽減や品質向上、ブランド力強化を図ることを目的に設置されたものです。



施設内の様子

式典では、管内のあんぽ柿生産者や市場関係者、関係機関など 133 人が出席する中、梁川天神社の宮司を招いて神事が執り行われました。続いて、同農業協同組合菅野孝志代表理事組合長から「当施設は国内屈指の大規模かつ近代的な施設で、今後、震災・原発事故からの産地復興と農業振興への一層の布石となると確信している」との力強い式辞がありました。

その後、今回の建設整備に携わった関係者等に感謝状が贈呈され、来賓の農林水産省鈴木良典生産振興審議官、県農林水産部佐藤清丸技監ほか 6 名から祝辞が述べられました。

最後に出席者によるテープカットとともに包装施設の起動スイッチが入れられ、盛会のうちに完成披露式が終了しました。



出席者によるテープカット

同施設は今年の秋より稼働し、約 500 t の原料柿を加工する予定となっています。当農業普及所としましてもさらなる出荷数量の増大に向けて支援をしていきます。

（伊達農業普及所）

## ◆平成28年度「田んぼの学校 生きもの調査」が行われました！

平成 28 年 7 月 13 日（水）、福島市立飯野小学校の敷地内水田において、平成 28 年度「田んぼの学校 生きもの調査」が行われました。



生きもの調査の様子

この事業は、県が実施する「ふくしまの農育」推進事業を活用して、平成 27 年度から 3 年間、5 年

生児童を対象に実施されているものです。5月に「開校式」と「田植え作業」が行われました。

当日は、始めに飯野小学校長から挨拶があり、続いて、当農林事務所農業振興普及部 丹治主任主査より「田んぼを人として上から見るだけでなく、田んぼにいる小さな生きものになったつもりでどのように見えるか考えながら調査してほしい」と説明を行いました。



飯野小学校長の挨拶

その後、2人1組で虫取り網・虫かごを手に田んぼの中に入り、どのような生きものが生息しているのかを調査しました。発見した生きものを図鑑で調べ、オタマジャクシ・カエル・アメンボ・ヤゴなどが確認できました。

児童からは「思ったより多くの生きものがいた」、「泥の中に入れて気持ち良かった」等の意見が聞かれました。

次回は9月ころ、農業総合センター見学が行われる予定です。



当農林事務所 丹治主任主査からの講評

(農村整備部)

## ◆ 農薬の適正使用をお願いします！

福島県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理の徹底等を推進するため、毎年6月10日から9月10日まで農薬危害防止運動を実施しています。



県北地方農薬適正使用推進会議

この運動を迎えるに当たり、去る平成28年6月6日(月)、県北地方農薬適正使用推進会議を開催しました。会議では、農薬使用基準の遵守、周辺環境への配慮、蜜蜂危害の防止、短期暴露評価の導入、無人航空機利用による防除の安全確認の徹底等、より一層、農薬の適正使用を推進していくことを確認しました。また、昨年度発生した残留農薬超過事例について学び、残留農薬超過事故発生時における各関係機関の対応について再確認を行いました。

これから夏秋野菜など収穫最盛期を迎え、農薬を使用する機会も増えてきます。農家の皆さんは、収穫した農産物が食品衛生法で定める残留基準値を超えることがないように、農薬を使用する場合には使用基準などを再度確認しましょう。

特に、「適用のない作物への農薬使用」や「有効期限が切れた農薬」を使用しないよう、また、短期暴露評価の導入により登録内容が変更され、使用できなくなる作物や使用方法が制限される場合もありますので、最新の情報を確認して使用する等、安全な農作物生産に努めましょう。

最後に、全国的に農薬の移し替えによる誤飲・誤食事故が後を絶ちません。農薬は清涼飲料水の容器等に移し替えないようお願いします。





平成28年度農薬危害防止運動ポスター  
(農業振興普及部)

の林縁部や川（沢）沿いなど、出没の可能性が高い場所での農作業は避けましょう。また、農地周辺のやぶを刈り払うなど、生息環境管理も適宜進めましょう。

なお、夏期は野生の餌が少なくなるため、農作物の被害が多くなります。中でも、もも、すいか、とうもろこしは各地で被害が発生しています。例年、被害が確認されている地域では、早めの対策を心がけましょう。

(農業振興普及部)

### ◆斑点米カメムシの防除を徹底し、28年産米の品質を確保しましょう！

今年、斑点米カメムシ類が、水田畦畔で平年より多く確認されています。これらのカメムシによる吸汁で、玄米の一部が黒く変色した「斑点米」が発生してしまいます。斑点がついた玄米は色彩選別機でしか除去することができないため、等級が落ちる主な要因となることから、斑点米カメムシ類の防除が重要になってきます。



斑点米

防除には主に次の2つの方法があります。1つは耕種的防除で、斑点米カメムシ類が畦畔のイネ科雑草を好んでいるため、草刈りをしてエサを無くすことで、被害を防ぐものです。しかし、稲が出穂してから草刈りをする、水田の中に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、出穂する10日前を目安に草刈りをしてください。

もう1つは薬剤防除で、穂揃期～乳熟期（出穂後7～10日後）頃に予防剤を散布し、その後発生が予想される場合は7日おきに追加防除をするものです。ただし、蜂や蚕に影響のある薬もありますので、周辺で養蜂や養蚕が行なわれている場合は、連絡調整をして危害防止に努めてください。

### ◆イノシシやクマから農作物を守りましょう！

現在、県内における農作物への鳥獣害被害のうち、イノシシによる被害が最も多くなっています。

イノシシが出没するのは餌があるからで、生ゴミや収穫残さは穴を掘って埋めるようにするなど、獣の目のつくところに捨てるのはやめましょう。

また、農地周辺のやぶの刈り払い、樹木の枝打ちや除伐などを行い森林内の見通しを良くするなど、獣が潜む場所を無くすのも有効です。

電気柵、トタン、ワイヤーメッシュ柵等を活用して農地を物理的に囲い侵入を防ぐことにより、被害を効果的に軽減できます。イノシシの場合は、電気柵の柵線を地面から20cm間隔で2段設置します。

「山中の10頭より里の1頭」というように、集落周辺を餌場に行っている個体を捕獲することが重要です。

クマについては、今年はいくつかの各地で目撃情報が相次いでいます。市街地にも出没しており、例年以上の注意が必要です。特に、早朝や夕暮れ時



アカスジカスミカメ(斑点米カメムシ類)  
(農業振興普及部)

### ◆イノベーター派遣制度を御活用ください！

県では、地域産業6次化に取り組む農林漁業者等が抱える課題等に対し、助言、指導を行う専門家（イノベーター）を派遣する制度を実施しております。

派遣にかかる費用は無料で、一事業者一事業について5回（事後支援は3回）まで、派遣することが可能です。専門的知識や技術に関する助言、指導の他、電話相談や書類作成補助などの支援メニューがあります。

イノベーターは現在57名が登録されており、事業計画作成や販売戦略構築を支援するビジネスプランナー、パッケージデザインや商品のストーリー作成等の新商品開発や商品改良を支援するプロダクトデザイナー、営業戦略の構築やテクニックの指導などを支援するセールスアドバイザーが登録されています。

手続方法や申請にかかる書類のダウンロード、イノベーターの一覧等の詳細は「ふくしま地域産業サポートセンター」のホームページを御覧ください。

※問合せ：企画部（024-535-0382）

※ふくしま地域産業サポートセンター

<http://www.fukushima-message.com/index.html>

(企画部)

### ◆当農林事務所の庁舎移転について(お知らせ)

平成28年8月22日（月）より、当農林事務所は県庁北庁舎5階に移転します。これに伴い住所、電話及びFAX番号が以下のとおり変更となります。

#### (1) 住所

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16



車でお出でになる方は「県庁外来駐車場」をご利用ください。

#### (2) 電話及びFAX番号

部	課	電話(各課共通)	FAX
総務部	総務課	024-521-2589	024-521-2850
企画部	地域農林企画課	024-521-2596	024-521-2850
	指導調整課	024-521-2597	
農業振興普及部	農業振興課	024-521-2604	024-521-2851
	地域農業推進課	024-521-2608	
	経営支援課	024-521-2609	
農村整備部	農地計画課	024-521-2617	024-521-2851
	農村整備課	024-521-2618	
森林林業部	林業課	024-521-2632	024-521-2851
	森林土木課	024-521-2639	



## ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

### 福島県酪農業同組合県北支所 “第47回福島県ホルスタインショーを開催！”

平成28年4月23日（土）、本宮市の福島県家畜市場において、福島県酪農青年研究連盟（以下「酪青連」という。）主催、福島県後援の「第47回福島県ホルスタインショー」を開催しました。ショーは、ホルスタイン種牛の改良促進に必要な飼養管理と乳牛に関する知識の普及啓蒙を図ることで、酪農経営の合理化に寄与することを目的に毎年開催されているものです。当日は、県内各地より50頭が出品されました。当支所も管内から出品された酪農家のサポートのため参加しました。また、デイリープリンセスの長谷川真菜さん、古川未歩さんにも御参加いただき、大会に花を添えていただきました。

今大会は、出品区分を7部制にして開催され、審査は、審査長に福島県農業総合センター畜産研究所 志賀美子所長、審査員に山形県置賜郡高畠町 深瀬幸二氏、アシスタント審査員に郡山市愛牛家尾形亜紀子氏をお迎えし、厳正なる審査を行っていただきました。

子どもたちを対象にしたジュニアショーでは13名が参加し、自分より大きな牛を引きながら将来立派な酪農家になることが期待できる自信に満ちた表情を見せてくれました。

審査の結果、経産牛の部では矢吹町・円谷真也さん出品の「サークルバレー アドベント アイオーン RED号」。未経産牛の部では、本宮市・今野さくらさん出品の「T. ユニオン アフター エチュード号」がグランドチャンピオンを受賞しました。また、ジュニアショーでは、石川町 岩谷悠生君（小学4年生）が褒章されました。おめでとうございます。

その後、恒例となった婦人部やまびこ会に準備いただいた「豚汁」を皆で食べました。ビンゴ大会などもあり、会員同士が交流を深め合う活気ある一日となりました。

今回のホルスタインショーは、佐藤正仁新会長の役員体制となって初めての行事となり、皆様の御協力のもと無事に終えることができましたことに対し感謝いたします。今後とも皆様の御支援・御協力をいただきますようお願いいたします。



佐藤正仁会長の挨拶



審査の様子



集合写真

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382 FAX 024-536-9590

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

